

市内景気動向調査結果

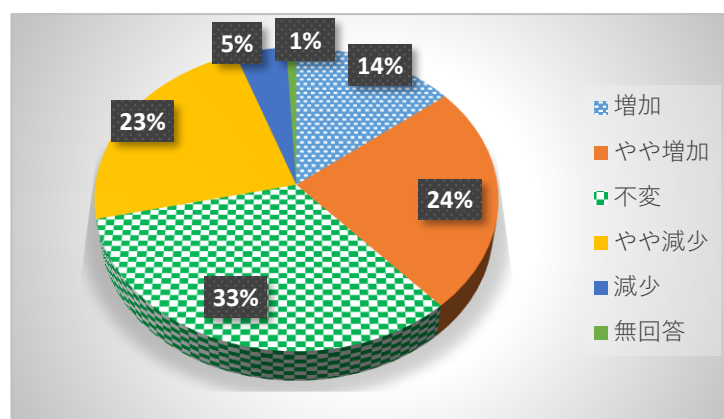
この調査は、第1四半期（令和7年7月から9月）と前年同期（3ヶ月）の比較を、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
112	38	16	6	22	25	5

※その他は、回答数が少なかった金融保険業、不動産業、飲食業

1. 売上高はどう変化したか。

増加	16
やや増加	27
不変	37
やや減少	26
減少	5
無回答	1
合計	112

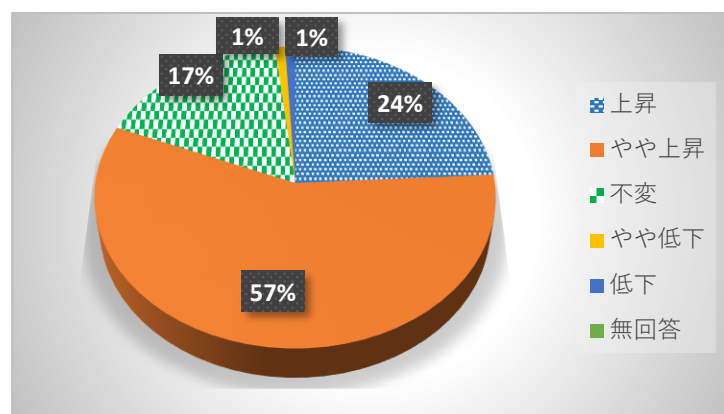


【コメント】

- 増加・やや増加が38.4%、不変が33.0%、やや減少・減少が27.7%であった。前年同期では、増加・やや増加が37.4%、不変が28.3%、やや減少・減少が34.3%であった。売上高減少の割合が若干改善された。
- 増加・やや増加の業種別割合は、運輸業が83.0%、製造業が50.0%、建設業が42.1%、サービス業が36.0%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、卸小売業が36.4%、サービス業が32.0%、建設業が28.9%、製造業が25.0%であった。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	27
やや上昇	64
不変	19
やや低下	1
低下	1
無回答	0
合計	112



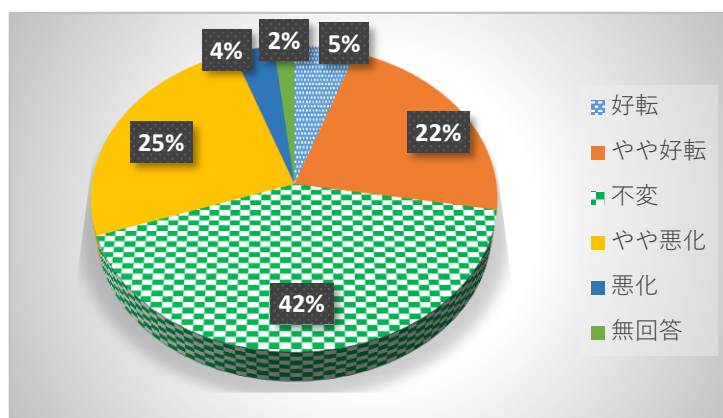
【コメント】

- 上昇・やや上昇が81.3%、不変が17.0%、やや低下・低下が1.7%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が75.8%、不変が21.2%、やや減少・減少が3.0%であった。
- 上昇・やや上昇の業種別割合は、運輸業が100.0%、製造業が93.8%、卸小売業が90.9%、建設業が81.6%であった。

- 前年同期に比べて上昇の割合は総じて増加しており、経営に与える影響は大変大きくなっている。

3. 採算について

好転	6
やや好転	25
不変	47
やや悪化	28
悪化	4
無回答	2
合計	112

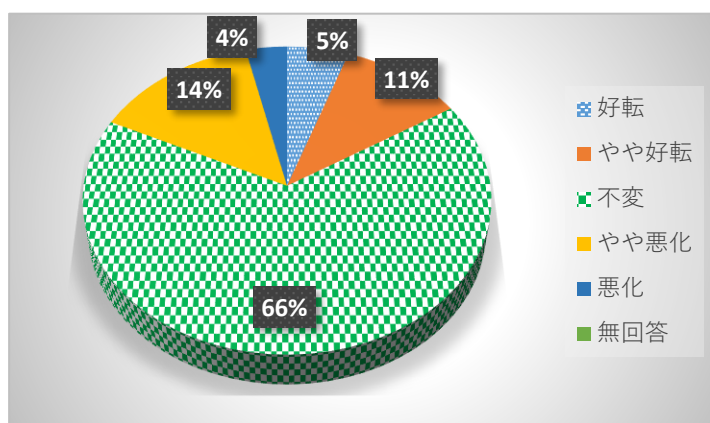


【コメント】

- 好転・やや好転が27.7%、不変が42.0%、やや悪化・悪化が28.6%であった。前年同期の好転・やや好転が25.3%、不変が38.4%、やや悪化・悪化が36.3%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が54.5%、製造業が31.3%、サービス業が28.0%、建設業が21.1%となっている。
- 数値的には若干改善されているものの、仕入単価等の上昇・高止まりが続いており、価格転嫁が難しいことが伺われる。

4. 資金繰りについて

好転	6
やや好転	12
不変	74
やや悪化	16
悪化	4
無回答	0
合計	112

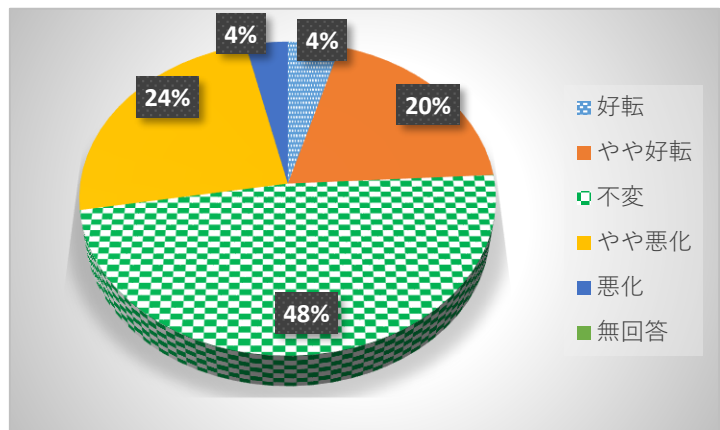


【コメント】

- 好転・やや好転は16.1%、不変が66.1%、やや悪化・悪化が17.8%であった。前年同期の好転・やや好転が14.1%、不変が66.7%、やや悪化・悪化が19.2%であった。
- 資金繰り悪化の業種割合では、卸小売業が36.4%、サービス業が20.0%、建設業が13.2%、製造業が12.5%であった。
- 資金繰りについては、ほぼ前年同期と同様の状況で、資金需要は大きく増えている状況にはない。

5. 業況について

好転	5
やや好転	22
不変	54
やや悪化	27
悪化	4
無回答	0
合計	112

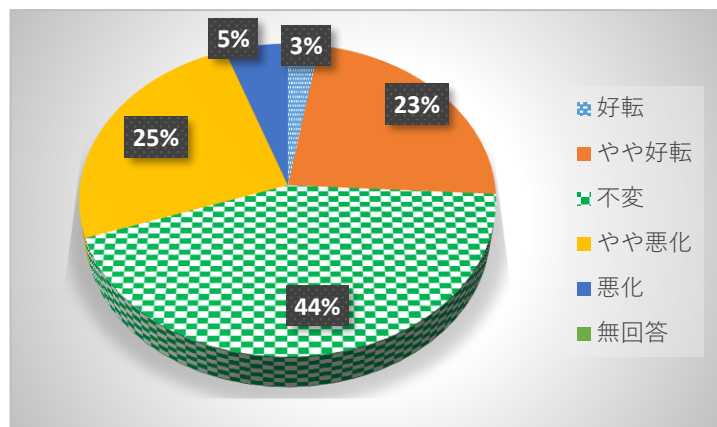


【コメント】

- 好転・やや好転は24.1%、不変が48.2%、やや悪化・悪化が27.7%であった。前年同期は、好転・やや好転が27.3%、不変が43.4%、やや悪化・悪化が28.3%であった。
- 業況悪化の割合が高い業種では、卸小売業が50.0%、サービス業が36.0%、製造業が18.7%、運輸業が16.7%、建設業が15.8%であった。

6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	3
やや好転	26
不変	49
やや悪化	28
悪化	6
無回答	0
合計	112

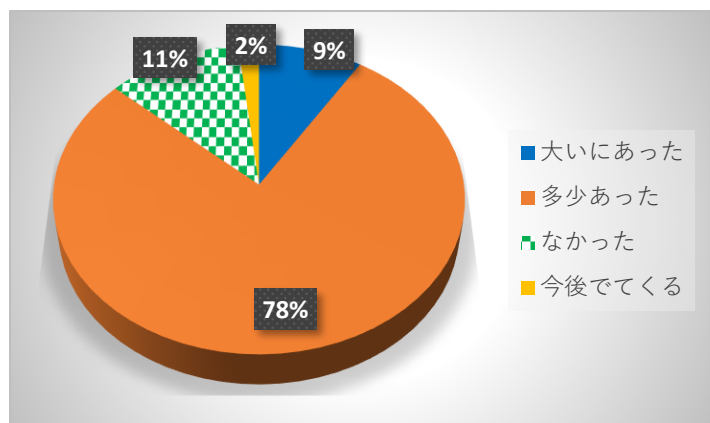


【コメント】

- 好転・やや好転が25.9%、不変が43.8%、やや悪化・悪化が30.3%で、前年同期では、好転・やや好転が26.3%、不変が51.5%、やや悪化・悪化が20.2%であった。
- 今後3ヶ月間の業況予想でも、改善は程遠い状況であるが、高市新内閣は積極財政を掲げているため、早急な経済対策が望まれる。

7. トランプ関税の影響について

大いにあった	10
多少あった	87
なかった	13
今後でてくる	2
合計	112



【コメント】

- 関税交渉が終わり、輸出産業への影響は当初よりも小さくなったが、予断を許さない状況である。
- 市内においてはアメリカ向けの輸出を主力としている企業がないことから、現在のところ影響は限定的となっている。
- 今後、自動車産業を中心とする輸出企業が生産拠点をアメリカ本土に移すことになれば、国内の雇用や経済に大きな打撃を与える可能性もあるため、動向を注視する必要がある。

■回答事業所からのコメント

【建設業】

- 資材、人件費等の上昇分は価格調整でしのげているが、人員不足で仕事量を増やすことができていない。
- 売上が上がると比例して利益も上がる。売上が下がると利益も減少して業況も悪化する。
- 安定した長期の工事受注があったので、やや好転でしたが、まだまだ先が見えない状況が続くものと思われます。
- 契約金の良い工事が年内に十分にあるため、見通しは良好です。
- 本年度より新たな部門を立ち上げ、民間工事への対応を強化したため、前年との単純な比較が難しい状況です。本年は民間案件の受注拡大と収益構造の多様化を図り、採算性の改善と事業リスクの分散を目指しております。新部門やDX関連の初期投資等、運用コストが前年よりも増加しておりますが、次年度以降に体制強化の成果を出したいと考えております。
- 第2四半期は、手持ち消化で好回転したが、第3四半期以降に向けての受注確保が見通せない状況。
- 資材高騰による物件の減少。
- 人手不足が悩み。
- 順調に件数がある。
- 受注高に変更はありません。
- 市の仕事が少ないので、売上確保に苦慮しています。
- 現状変わらず。
- 受注は増えているが、回収が遅れている。
- 順調に公共工事の受注はできているが、限られた人員のため受注量に限界がある。人員確保がよくなれば売上もまだ好転できる見込みがあります。
- 地元の現場が薄く、出張へ出たので仕事は回っていたが、天候に左右され気味。出張は費用も増えるので、やや上昇のやや、微々たるもの。繁忙期に期待しています。

【製造業】

- 新年度から変圧器の規格変更による駆け込み需要によるもの。
- 建設業は人手不足、経営者の高齢化で廃業2社あり。いろいろな物価値上げで、リフォームを積極的に行わない傾向あり。
- 原資材料やエネルギー費用は高騰し、受託生産量は変化なくコストアップの状況は続く。各受託メーカー先との価格交渉が進み単価（受託価）を上昇できたため、売上量は変わらないものの売上高、収益は若干増加傾向となり助かっている。
- 販売先が大きく変更となり、仕様変更後の製品を製造しているが、販売は11月中旬からのため業況は悪化する。
- 今期も受注状況は比較的安定しているが、大型工事物件のスタートが来期以降に集中しているため、年度末までは業況は前年同期間に比べ若干ダウン気味。しかし、これに関しては既に織り込み済みである。また、あらゆる物価高騰で原価の突き上げもあるため、製品価格転嫁に注力し、受注・生産体制の強化にも努めていきたい。

- 前年同期と比べると売上はやや減少し、損益は悪化している状況。労務費や外注費の値上げによるコストUPで、売上や損益への影響が出てきている。

【運輸業】

- 新車購入費用の増加。
- 今後、国の政策に期待したい。

【卸小売業】

- イベント関連の売上については、ファイターズがCSでエスコンでの試合開催があるので期待している。除菌消臭水については、夏場は厳しかったが、秋に入ってインフルエンザの流行の兆しがあるので期待しているが、プラボトルの値上げが採算低下になっている。
- 仕入原価が毎月のように上がっており、ある程度は売価に反映せざるを得ない状況で、買い控えや利益減に繋がっている。
- 物価上昇のせいです。
- 農業資材、特に肥料等の高騰により今後は自家製の完熟採肥等の工夫が必要となるため、当研究所が農業経営者への指導に当たる所存です。
- 夏の猛暑で花の生育が悪くて仕入も良い品物が入荷しなくなったり、飾ってもすぐダメになるので客足が途絶えました。
- 人件費上昇が一番の問題です。
- 競争環境の変化がないため。
- 政治家主導の問題。
- 借入金がほぼなくなり、自己資本で経営できるようになったため。
- 物価高で皆さん買い物を控えているような気がします。
- 燃料高騰による仕込額の増加に合わせた販売価格の上昇。12月が繁忙期のため今後3カ月は、9月まで以上のご来店が見込めます。

【サービス業】

- これからの10～12月が建設業のピークとなりますが、終了現場も多く不変かと思います。
- 外部要因によっての影響はなく、これまで通り。
- 世の中の様々なモノの物価高騰により、消費者が節約をしていると思っている。
- 家庭の都合により今後も同じ状況が予想される。
- 委託費の増額や主催事業により売上高は増加するも、人件費やエネルギー、物価の高騰によりコスト増が大きく、業況としては悪化傾向にある。
- 教習料金の値上げによる。
- 原材料は高騰しているが、その分を価格転嫁できたのと、売上が増加したので業績が好転した。売上は大幅に増加した。仕入単価は上昇した。

【その他】

- 不動産の市況に大きな変化はありませんでした。
- 値上げした。物価の上昇とシーズンオフに入る。
- 春先から不動産売却依頼が多く、この時期になって売却先が決まり始めているため。例年に比べて動きが少し遅い気がします。